

# 社会調査の基礎

土井 幸治

# はじめに

---

## 【出題実績】

- ① 本科目から7問出題
- ② 量的調査、質的調査がほとんど
- ③ 量的調査から3～4問出題
- ④ 他項目からは1問あるかないか

# 1. 量的調查

# 量的調査のPOINT

---

- 1-1 量的調査とは
- 1-2 標本抽出法
- 1-3 質問形式と回答形式
- 1-4 質問項目作成
- 1-5 信頼性と妥当性
- 1-6 実施方法
- 1-7 集計方法
- 1-8 分析方法

## 1-1 量的調査とは

---

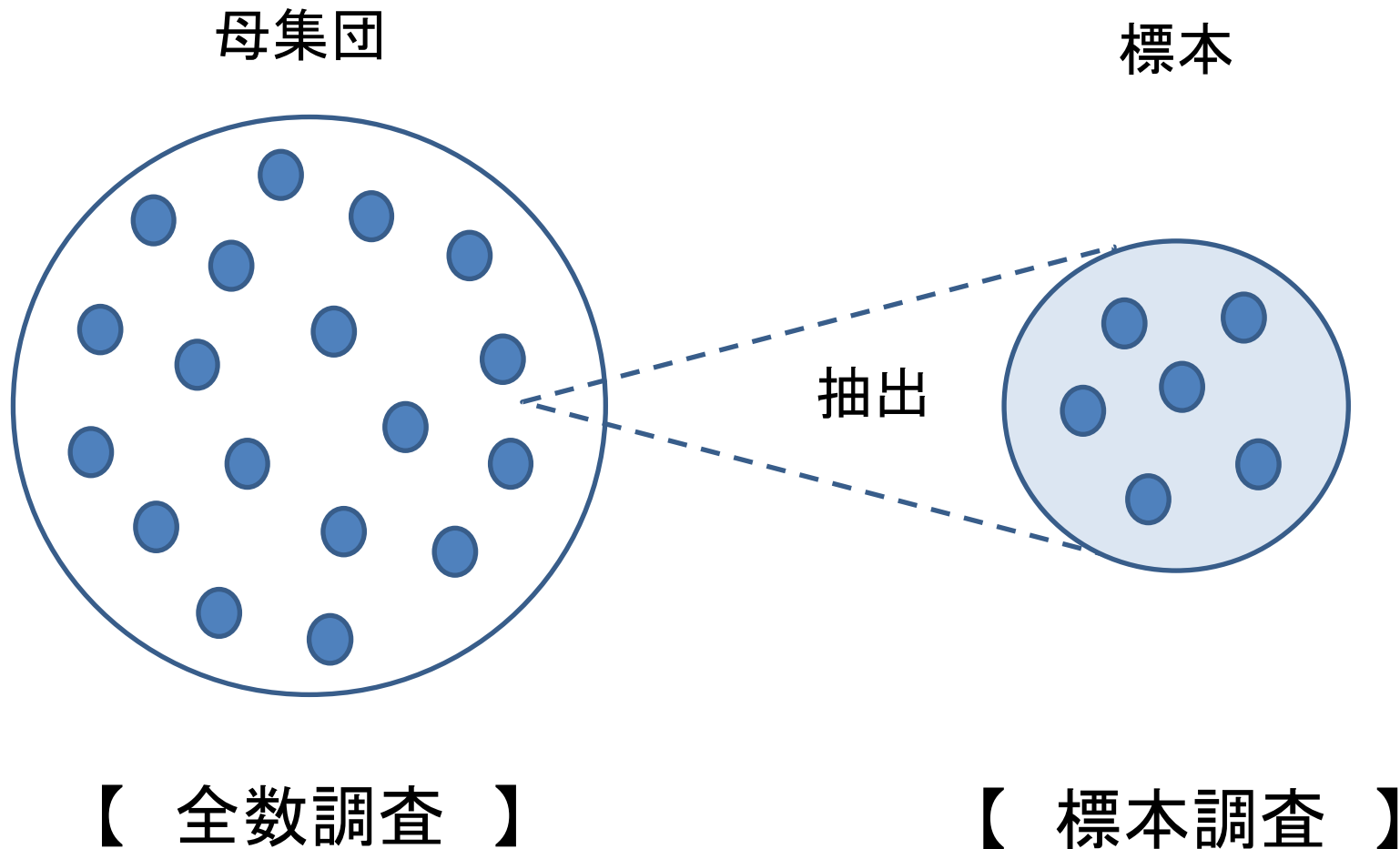
■ 量的データを扱い、**統計的手法を用いて**調査対象の特性を理解するための調査のこと

■ 量的調査には、**全数(悉皆)調査**と呼ばれる**全体を対象**に行う調査がある

■ 量的調査には、**標本(一部)調査**と呼ばれる**全体の標本(一部)を対象**に行う調査がある

# 1-1 量的調査とは

---



## 1-2 標本抽出法

---

■ **標本抽出**とは、全体(母集団)から標本(一部分)を抽出することを言う。

■ 抽出方法には、主観的に代表的と思われるものを抽出する**有意抽出法**と客観的な基準から抽出する**無作為抽出法**がある。

## 1-2 標本抽出法(有意抽出法)

---

### ① 応募法

募集をし、協力者を標本化

### ② 機縁法

知人など、縁故関係者を標本化

### ③ スノーボール法

少数の者とその関係者も標本化

### ④ 割当法

条件で対象数を割当て標本化



## 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)★

### ■ 無作為に抽出するとは？

作為なく・・・つまり偶然任せで抽出すること

- 抽選箱
- 乱数表
- エクセル関数「RAND」



## 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)

---

### ① 単純無作為抽出法

母集団から対象者リストに基づいて、無作為に標本を抽出

例) 100人の母集団より3人を抽出する場合

100人が記名されたカードを箱に入れ、カードを3枚抽出する。100人の抽出される確率がもっとも等しい抽出法である。

## 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)

---

### ② 系統抽出法

母集団よりまず1つ標本を抽出し、**等間隔で順に**標本を抽出する方法

例) 100人の母集団より5人を抽出する場合

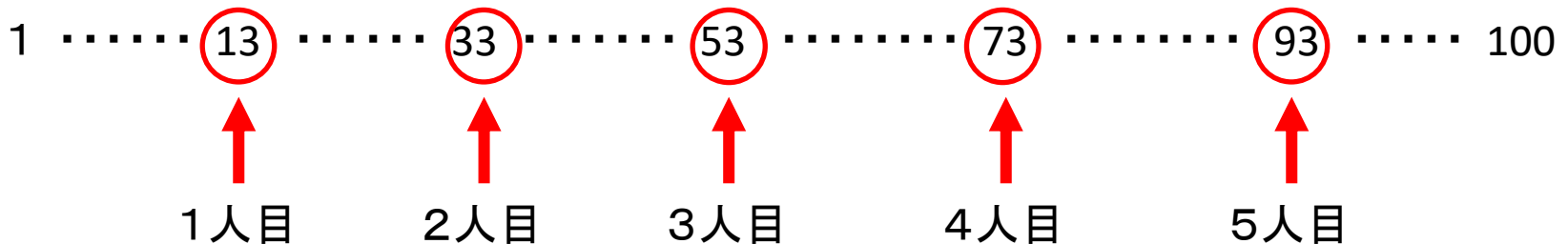
100人を並べて、まずランダムに1人を抽出し、その後は等間隔なので1人目から20番目の人が2人目で、40番目の人が3人目で・・・と5人を順に抽出する。

## 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)

### ② 系統抽出法

母集団よりまず1つ標本を抽出し、**等間隔で順に**標本を抽出する方法

100人から5人を等間隔で抽出すると  $100 \div 5$  で 20番目ごとに抽出。



## 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)

---

### ③ 層化抽出法(=確率比例抽出法)

母集団の各層の割合がわかっている場合に、それらの層ごとに標本の無作為抽出を行う

例) 30人の母集団(男:女=1:2)より3人抽出する場合

母集団を男女の層に分類して、男性層より1人と女性層より2人を抽出する。

## 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)

---

### ④ 多段抽出法

複数段階の無作為抽出を繰り返し、最終的に標本を抽出する方法

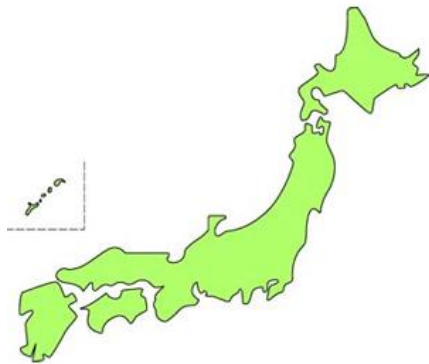
例) 全国の高齢者から1000人抽出する場合

まず一段階目で例えば地域を絞るために無作為に対象とする地域を抽出し、その後、その地域から1000人を無作為に抽出する。

# 1-2 標本抽出法(無作為抽出法)

## ④ 多段抽出法

まず一段階目で例えば地域を絞るために無作為に対象とする地域を抽出し、その後、その地域から1000人を無作為に抽出する。



高齢者を1000人抽出



無作為に1地域抽出



無作為に1000人抽出

## 1-3 質問形式と回答形式

---

### ■ 質問紙法

あらかじめ作成された質問紙(調査票・アンケート用紙)を用いて、対象者に回答を求め、データを収集する方法を指す



## 1-3 質問形式と回答形式

---

回答の求め方には下記のような方法がある。

**自由回答法** 回答を自由に記入

**選択回答法** 回答を選択肢より選択

- **多肢選択** 選択肢の中から1つを選択
- **複数選択** 選択肢の中から複数個を選択
- **順位選択** 選択肢に順序で回答
- **程度選択** 回答に程度が設定され選択

## 1-3 質問形式と回答形式

---

回答の求め方には下記のような方法がある。

### リッカート尺度

問1 今年の夏は昨年より暑かったですか？近いものに○をつけてください。

1)大変思う 2)やや思う 3)あまり思わない 4)思わない

### Semantic Differential 法

問1 仕事に関する印象について各項目で当てはまる形容詞に近い数値に○をつけてください。

1) 楽しい 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 楽しくない

2) 苦しい 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 苦しくない

## 1-4 質問紙の作成

---

### ■ オープンな質問

自由回答を求める質問を指す

- \* 即答しにくいいため、多用すると回収率が下がる傾向がある

### ■ クローズな質問

はい・いいえで回答を求める質問を指す

- \* 回答しやすいため、上記の質問に対し回収率が高い傾向がある

## 1-4 質問紙の作成

---

### ■ステレオタイプ語

言葉自体が通俗的な特定のイメージや価値観と結びついている言葉を指す

### ■ダブルバーレル質問

複数の内容を1つの質問で求めようとする質問のことを指す

## 1-4 質問紙の作成

---

### ■ イエス・テンデンスー

人は「はい」と回答する傾向があることを指す。

### ■ フィルター質問

尋ねたい質問に含まれる内容についての知識があるかないかを事前に尋ねる質問を指す。

### ■ 否定疑問文

「●●ではないと思いますか？」という質問を指す。回答しにくいことから避けるべきである。

## 1-4 質問紙の作成

---

### ■ パーソナルな質問

個人的な意思や態度表明に重点を置いた質問を指す

### ■ インパーソナルな質問

より社会的・一般的なレベルでの意見表明に重点を置いた質問を指す

## 1-4 質問紙の作成

---

### ■ キャリーオーバー効果

前に配列された質問が、後の質問の回答に偏りを与える影響効果を指す

例)

1. 算数のテストの結果に○を付けて下さい。
2. 算数は得意ですか？

\* 1番の回答は、2番を回答する際に影響が考えられる

## 1-4 質問紙の作成

---

### ■他の留意点

- ・専門用語、難解な言葉、略語を使用しない
- ・指示代名詞をあまり使用しない
- ・相互排他的で網羅的な質問を作成する
- ・用語を明確に定義する（例）子ども

etc



## 1-4 質問紙の作成(変数の種類)

---

### ■ 変数

測定した内容を数量で表したものを変数(変量)と呼ぶ。

性質による区別

- ・量的変数 数値に量的な性質がある
- ・質的変数 数値に量的な性質がない

因果関係による区別

- ・独立変数 因果関係で要因とされる変数
- ・従属変数 因果関係で結果とされる変数

## 1-4 質問紙の作成(変数の種類)

---

### ① 名義尺度(質的変数)

変数の属性がただ1つに決まるものであって1つの属性が他の属性と排他的な関係にある場合、名義尺度によって測定される。

例)

性別／国籍／血液型など

## 1-4 質問紙の作成(変数の種類)

---

### ②順序尺度(質的変数)

変数がある順序を特性として有する場合、順序尺度によって測定される。各変数の順序の差に数的な意味はない。

例)

評価／感情／順位など

## 1-4 質問紙の作成(変数の種類)

---

### ③ 間隔尺度(量的変数)

ある特性を測定するための尺度上の値が等間隔に出来て、**絶対的原点ゼロをもたない**場合、間隔尺度によって測定される。各変数の差に数的な意味をもつ。

例)

(摂氏)温度など

## 1-4 質問紙の作成(変数の種類)

---

### ④ 比例尺度(量的変数)

ある特性を測定するための尺度上の値が等間隔に出来て、**絶対的原点ゼロをもつ**場合、比例尺度によって測定される。各変数の差に加え比率にも数的な意味をもつ。

例)

重さ／長さ／時間など

	尺度	変数	標本平均	中央値	最頻値
質的データ	名義尺度	順序や量的関係がない	×	×	●
	順序尺度	順序関係がある	×	●	●
量的データ	間隔尺度	各カテゴリー間の間隔が等しく、絶対的原点をもたない	●	●	●
	比例尺度 (比率尺度)	各カテゴリー間の間隔が等しく、絶対的原点をもつ	●	●	●

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ■ 信頼性 (≡ 測定器の精度の検証)

調査結果がどの程度、再現可能か (同人物が複数回行っても、または他の人物が調査を行っても同じ結果) を示すもの

### ■ 信頼性係数

測定の信頼性を表し、信頼性係数と呼ぶ。

低い  $0 \leq$  信頼性係数  $\leq 1$  高い

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ① 平行検査法

同一の対象者に、同じ回答が出ると想定される似通った2つの質問を行い、2つの回答を比較する方法を指す。

\* 2つの回答の相関係数が信頼性係数となる。



## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ②再検査法

同一の対象者に期間をあけて同一の質問を行い、1回目と2回目の回答を比較する方法を指す。(=パネル調査)

\* 1回目と2回目の回答の相関係数が信頼性係数となる。2回目との期間が回答に影響することもある(例:学習効果、パネルの摩耗)。

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ③折半法

質問用紙にもともと似通った2つの質問を入れ、被験者に回答してもらおう。その後、回答を折半し、似通った2つの質問の回答を比較する。

\* 似通った2つの質問の回答の相関係数が信頼性係数となる。

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ④ 内部一貫法

複数の質問項目間に**内的整合性**(質問したい特性を測定するための項目群であること)があるかどうか判断する方法である。代表的なものにクロンバックの $\alpha$ 係数がある。

折半法の「似通った2つの質問を決定する際に主観になる。」という課題をクリアした手法である。

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ■ 妥当性（≡測定器の選択の検証）

調査結果が調査対象の現象を正確にとらえているかを示すもの

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ① 内容的妥当性

測定に用いられる質問や課題の内容が測定する特性をうまくとらえているかを示す。この判断には、その調査方法や測定対象に関する専門家の意見をふまえる。

## 1-5 信頼性と妥当性

---

### ② 基準関連妥当性

同一の特性を測定したほかの方法とどの程度結果が一致しているかを示す。

### ③ 構成概念妥当性(=因子的妥当性)

全体的にみて意図するものを測定しているかを示す。測定対象に関係のありそうな因子に対して吟味した上で測定内容を決める。

## 1-6 実施方法(配布と回収)

---

### ① 面接調査

配布: 訪問して(口頭で)直接調査

記入: 他形式

回収: 調査時に回収

長所: 内容誤解や誤記入が少ない

回収率が高い

短所: 時間、人材、費用の負担が大きい

調査員の影響が疑われる

## 1-6 実施方法(配布と回収)

---

### ②郵便調査

配布：郵送

記入：自形式

回収：記入後に返送

長所：対象が広範囲に散在、費用が低い

短所：回収率が低い、内容の誤解、誤記入



## 1-6 実施方法(配布と回収)

---

### ③配票調査(留め置き)

配布: 訪問して配布

記入: 自形式

回収: 一定期間後に回収

長所: 回収率が高い、都合のよいときに記入可

短所: 本人記入の確証がない

内容の誤解、誤記入

## 1-6 実施方法(配布と回収)

---

### ④ 電話調査

配布：電話

記入：他形式

回収：その場で回収

長所：実施が容易

短所：切断されやすい

## 1-6 実施方法(配布と回収)

---

### ⑤ 集合調査

配布: 対象を1ヶ所に集め配布

記入: 自形式

回収: その場で回収

長所: 時間と経費の節約、回収率が高い  
本人の回答を得やすい

短所: 調査のみのための集合に難あり  
集団効果の影響の可能性あり

## 1-6 実施方法(配布と回収)

---

### ⑥ ネット調査

配布: ネット上にアップ

記入: 自形式

回収: その場で回収

長所: 広範囲に実施可、対象の都合で記入可

短所: 記入者の確認が難

## 1-6 実施方法

---

### ■ 横断調査(1回の調査、多種の情報収集)

1回の調査で、さまざまな種類のデータをとる調査で、そのデータを横断データ(クロスセクショナルデータ)と呼ぶ

### ■ 縦断調査(数回の調査、変化を調査)

2回以上の調査で、時間間隔をあけて何回もデータをとる調査であり、そのデータを時系列データと呼ぶ

## 1-7 記入形式

---

### ■ 自形式調査(対象者が記入)

(長)調査者の負担減

(短)調査に関する誤解、記入違いなど

### ■ 他形式調査(調査者が記入)

(長)調査に関する誤解や記入漏れの減少

(短)調査者の負担増

## 1-8 集計

---

### ■ 単純集計

個々の変数についてその度数を集計したもの

### ■ クロス集計

2つ以上の変数のカテゴリーを組み合わせて、その度数を集計したもの

# 1-8 集計

## 例) 単純集計とクロス集計

身長の階級	度数(人数)
140cm未満	13
140cm以上150cm未満	22
150cm以上160cm未満	6
総数	41

2つの変数(身長×性別)の  
クロス集計

身長の階級	男児	女児
140cm未満	2	11
140cm以上150cm未満	13	9
150cm以上160cm未満	5	1
総数	20	21





## 1-8 集計

---

### ■ 度数 (X)

各カテゴリー(階級)に属するデータの数を指す

### ■ 度数分布

各カテゴリーの度数で表された全体の傾向(分布)を指す

### ■ 度数分布表

その度数の全体傾向を数表に表したものを度数分布表と呼ぶ

## 1-8 集計

---

### ■ 相対度数

度数を全体度数(全体数)で割ったもののことで、全体に占めるその度数の比率(%)を指す

### ■ 累積度数

そのカテゴリーに含まれる度数を加算して合計(累積)した度数を指す

### ■ 累積相対度数

累積度数の全体数に対する割合(%)を指す

## 1-8 集計

### ■ 度数分布表の例

階級	度数 (人数)	相対 度数 (%)	累積 度数 (人数)	累積相対 度数 (%)
140cm未満	13	32	13	32
140cm以上150cm未満	22	53	35	85
150cm以上160cm未満	6	15	41	100
総数	41	100		

## 1-9 分析

---

データ分析に用いる技法には、記述統計学と推測統計学に大別できる。

### ■ 記述統計学

量的データの**特徴や特性を記述的に表す方法**

### ■ 推測統計学

標本の結果から**母集団の特性を推測する方法**

# 1-9 分析

## ■記述統計量

得られたデータの特徴を表す数値を統計的に計算したものを指す

1変量の性質を表す記述統計		2変量の関係を表す記述統計	
平均値	範囲	(不偏)共分散	
中央値	(不偏)分散	回帰係数	
最頻値	標準偏差	相関係数	
百分位数	歪度		
四分位数	etc		etc

## 1-9 分析

---

### ■ 平均値 ( $\bar{x}$ )

測定値の合計をケースの数で割った値を指す。

### ■ 中央値

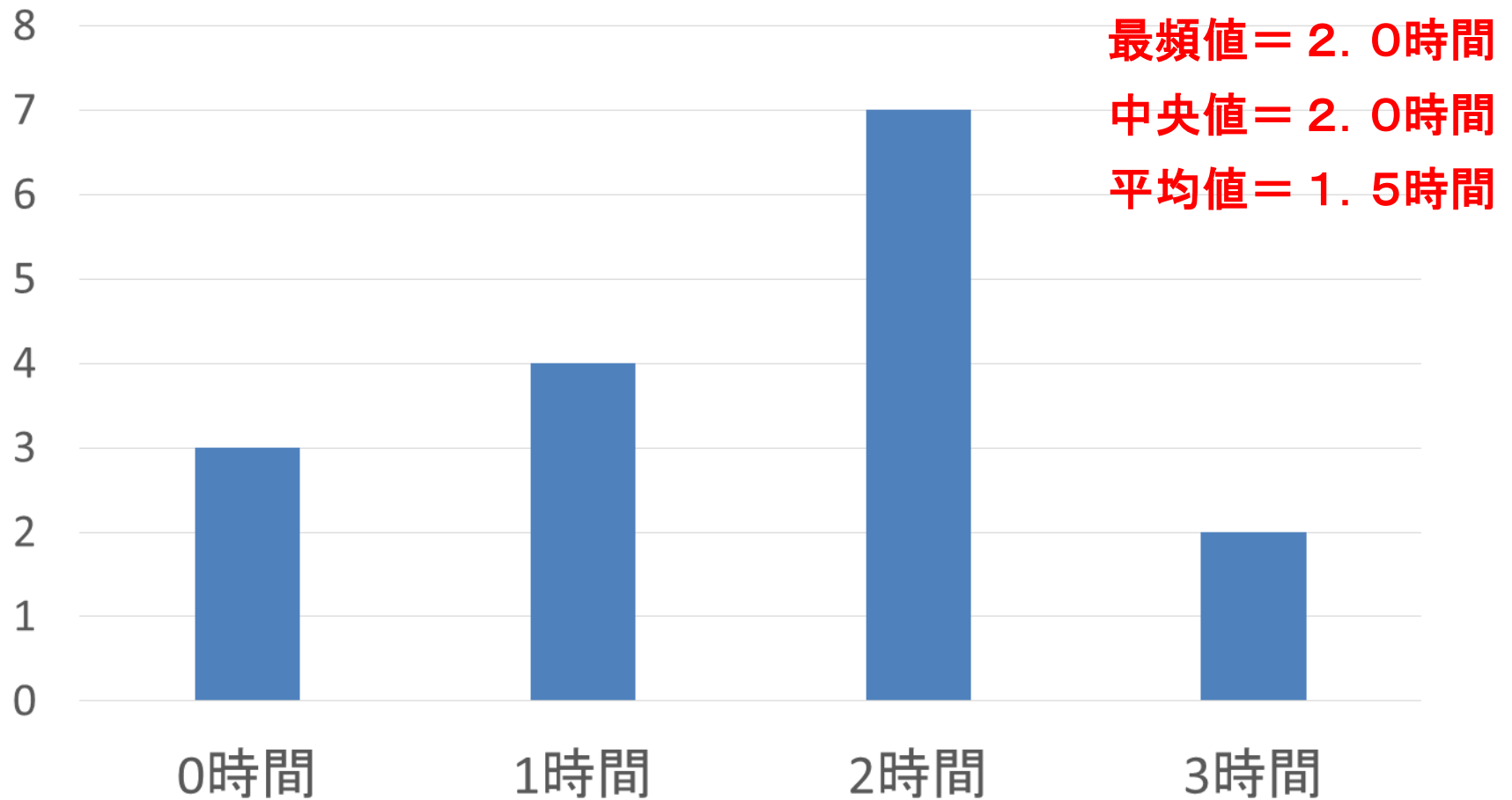
測定値を大きさ順に並べ中央にくる値を指す。

### ■ 最頻値

測定値の中で一番多い値を指す。

# 1-9 分析

家庭学習の時間



## 1-9 分析

---

### ■ 百分位数(パーセンタイル)

測定値の小さい方から順に並べ小さい方から数えて何%目の標本の値かを表す数値を指す。

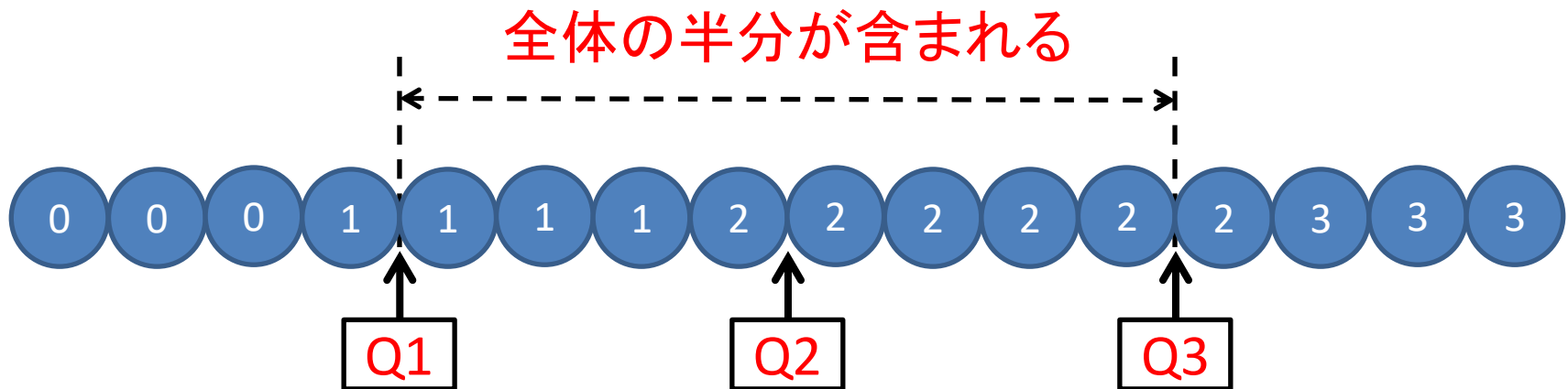
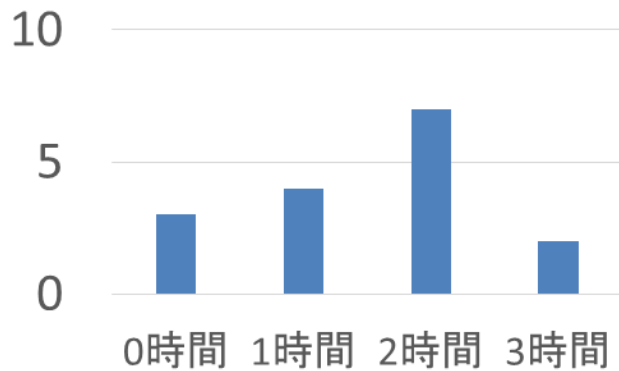
### ■ 四分位数

測定値をそれぞれ四等分したもので第1四分位を下側四分位数といい、小さい方から1:3に分ける値を指す。



# 1-9 分析

家庭学習の時間



## 1-9 分析

---

### ■ 散布度

分布の広がりを指す指標で、代表値（平均値）を中心とした測定値の散らばりの程度を指す。

\* 範囲、分散、標準偏差などの総称である。

## 1-9 分析

---

### ■ 範囲 (範囲 = 最大値 - 最小値)

測定値について、最大値と最小値の間の差を指す。

### ■ 偏差 (偏差 = 平均値 - 測定値)

測定値と平均値との差を指す。

## 1-9 分析

---

### ■ 標本分散 ≡ 分散 (V)

標本の測定値が標本の平均値よりどのくらい散らばっているかを示す指標を指す。

$$V = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n}$$

## 1-9 分析

---

### ■ 不偏分散 (U)

標本の測定値の散らばりを表すと同時に、母集団の散らばりの推定値でもある。

$$U = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n - 1}$$

## 1-9 分析

---

### ■ 標本標準偏差 (S)

散布度を示す統計量の1つで、分散の正の平方根をとった値を指す。

\* 平均  $\pm$  標本標準偏差内に全体のおおよそ3分の2が含まれる。

$$S = \sqrt{V}$$

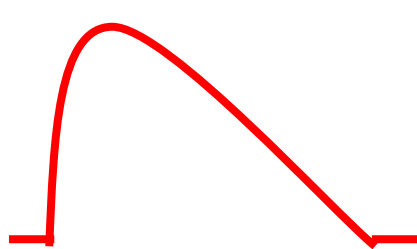
## 1-9 分析

---

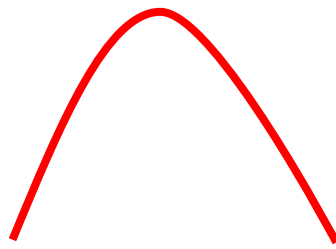
### ■ 歪度(わいど)

分布が平均値を中心に左右対称になっているか否かを示す量のことを指す。

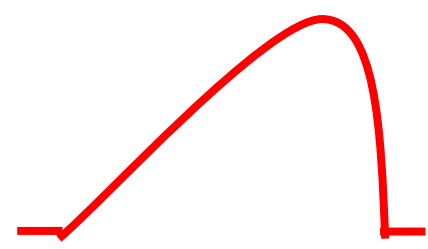
歪度が正の場合は、最頻値 < 中央値 < 平均値となる。



(正)



(ゼロ)



(負)

## 1-9 分析

---

### ■ 相関係数

2つの変数間にある関係の程度を定量的に示す指標のこと。

### ■ 偏相関係数

2つの変数間の擬似相関を検証するため、第3の変数の影響を除いたときの相関係数のこと。



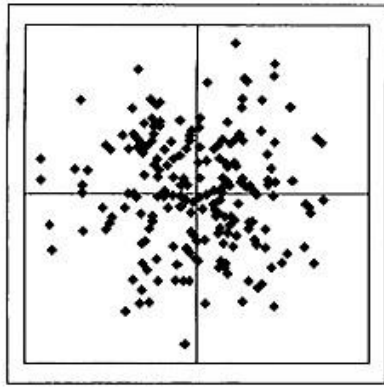
## 1-9 分析

---

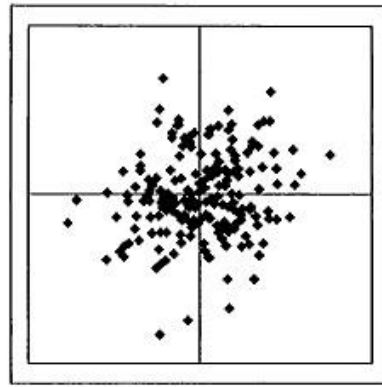
### ■ 相関係数 (≒ピアソンの積率相関係数)

- ・ 2変量の関係の程度を示す。
- ・ 尺度が間隔又は比率尺度のとき。
- ・ パラメトリック(正規分布を仮定する)のとき。
- ・ 範囲は  $-1 \leq \gamma(\text{ガンマ}) \leq 1$  となる。

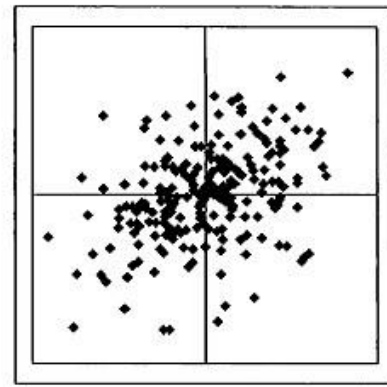
# 1-9 分析



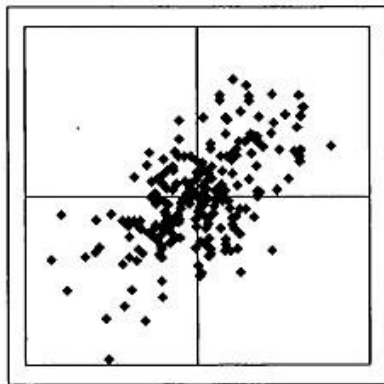
$r=0.0$



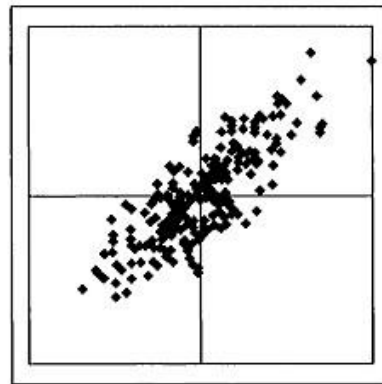
$r=0.2$



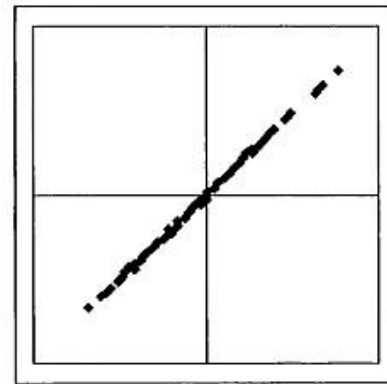
$r=0.4$



$r=0.6$



$r=0.8$



$r=1.0$

## 1-9 分析

---

### ■ 相関係数(スピアマンの順位相関係数)

- ・2変量の関係の程度を示す。
- ・尺度が**順序尺度**のとき。
- ・ノンパラメトリック(**正規分布でない**)のとき。
- ・範囲は  $-1 \leq \rho(\text{ロー}) \leq 1$  となる。
- ・順位についてピアソンの相関係数を利用。

## 1-9 分析

---

### ■ 相関係数(ケンドールの順位相関係数)

- ・2変量の関係性を示す指標のこと。
- ・尺度が**順序尺度**のとき。
- ・ノンパラメトリック(**正規分布でない**)のとき。
- ・範囲は  $-1 \leq \tau(\text{タウ}) \leq 1$  となる。
- ・ペアの順序関係が両リストでどれだけ一致しているかという指標

## 1-9 分析

---

### ■ (不偏)共分散

2つの変量間の相関関係を調べる記述的指標を指す。2変量の関係が比例している場合は正を示し、反比例している場合は負を示す。しかしながら、**単位の影響を受ける。**

## 1-9 分析

---

### ■ $\chi^2$ (カイ) 2乗検定

2つの変数(質と質)の関係性(適合・独立)を検証する方法である。クロス集計をした場合に用いる。特徴は測定値と平均値をもとに、仮説(帰無仮説)立て、棄却させてその関係性を検証する。

## 1-9 分析

---

### ■ t(ティ)検定

- ・2つの変数の平均値に差があるかどうかを検証する方法を指す。
- ・2つの変数の差の分布が正規分布のとき。

## 1-9 分析

---

### ■ 分散分析

調査結果が分散する要因はさまざまである。そもそも調査には何らかの誤差が生じる(実験誤差)。しかし、分散の結果が、実験誤差によるものではなく、他の何かしらの要因(因子)があるのであれば問題である。そこで分散の結果が**実験誤差によるものか、因子によるものか**を検証する必要がある。



## 1-9 分析

---

### ■ 分散分析

3つ以上の変数の平均値の差から、分散する要因(要素)について分析を行う方法のこと。

要素が1つの場合 → 一元配置分散分析

要素が2つの場合 → 二元配置分散分析

要素が3つ以上の場合 → 三元配置分散分析

## 1-9 分析

---

### ■ 回帰分析

ある変数のそれぞれの値に対応するもう一方の変数の平均値を求めることを指す。

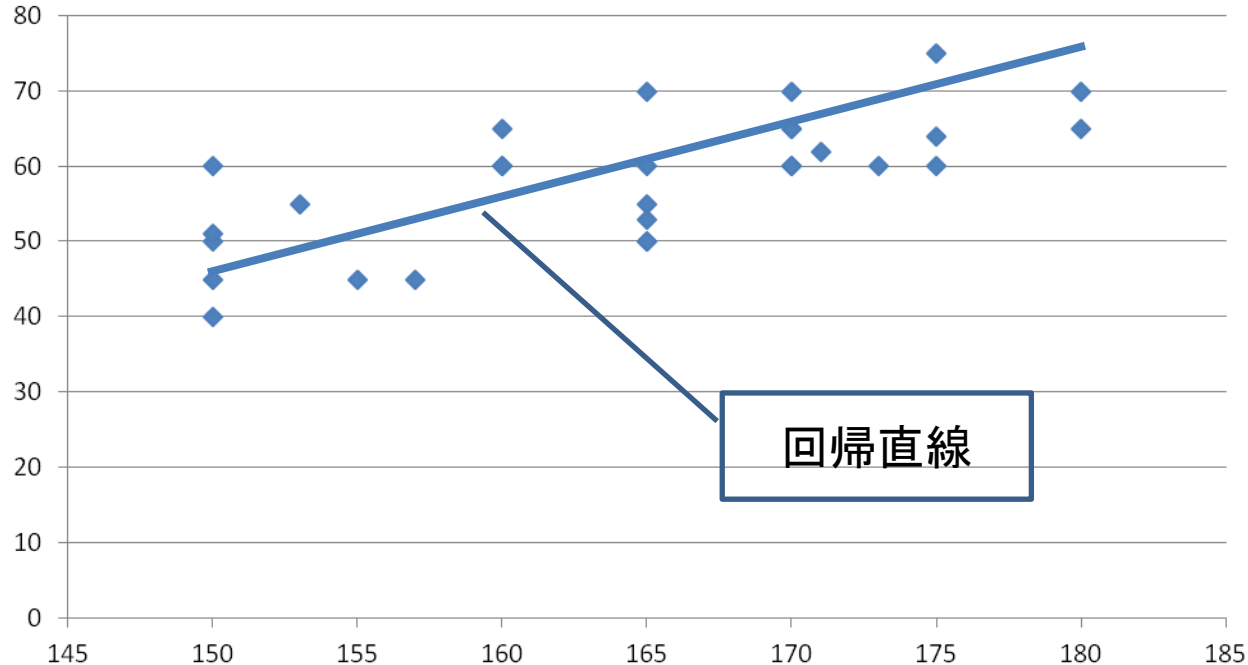
### ■ 回帰直線

回帰を散布図上で1本の直線で表したものを指す。その直線の傾きを回帰係数と呼ぶ。

# 1-9 分析

## ■ 散布図

1ケースに対して複数の量的データを得た調査の場合、2変量の間係を視覚化する方法



## 1-9 分析

---

### ■ 単回帰分析

従属変数(量)と1つの独立変数(量)の相関係数を統計的に分析する方法である。

\* 2変量の回帰直線は  $y = ax + b$  からなる。

## 1-9 分析

---

### ■重回帰分析

単回帰分析の**独立変数が複数**になった分析方法である。すべての変数の間で相関係数を算出可能である。(データ数 > 独立変数)

## 1-9 分析

---

### ■ ロジスティック回帰分析

従属変数(量)と独立変数(質)の関係式を統計的に分析する方法である。正規分布でなくても分析可能なところが特徴的である。

## 1-9 分析

---

### ■ 因子分析

変数間に従属・独立の関係が未設定で、潜在変数(因子)の存在も仮定しながら、観測変数間の相関を分析する方法である。すべての変数が量的データ(間隔尺度以上を原則に順序尺度も5件法以上であれば可)のときに用いられる。

## 1-9 分析

---

### ■ 因子分析 (探索的因子分析)

明確な**仮説を持たず**して観測変数と因子の関係を求めようとする場合に用いる分析方法である。多項調査を行い、探索的因子分析にて、観測変数に**影響を大きく与える変数を因子として抽出**することが多い。



## 1-9 分析

---

### ■ 因子分析 (検証的因子分析)

先行研究や事前に行った探索的因子分析の結果で得られた因子と観測変数の関係性を検証(分析)する方法である。

## 1-9 分析

---

### ■ クラスター分析

異なる性質のものが混ざりあっている集団(対象)の中から互いに似たものを集めて集落(クラスター)を作り、対象を分類する方法の総称である。

## 2. 質的調查

# 質的調査のPOINT

---

2-1 質的調査とは

2-2 実施方法

2-3 分析方法

## 2-1 質的調査とは

---

- 質的データを扱い、統計的手法を用いない調査のこと
- 言語や非言語的イメージといった形態のデータを解釈することで社会現象を理解・説明
- 全体像よりも個別具体性を重視し、仮説生成を求めること、内面や意味の理解を目指す

## 2-1 質的調査とは

言語データ	非言語データ
インタビュー記録	映像記録・映画
日記・日誌	写真
社史・議事録	スケッチ
行政文書	地図
雑誌・新聞などの記事	絵画・彫刻・塑像
小説・詩・エッセイ・手日記・伝記	音楽・演劇などのパフォーマンス
電子メール・ブログ・ウェブ上の記載	

## 2-2 実施方法

---

### ■ 面接法（インタビュー）

調査者と対象者との**対面的な関係**において、質問と回答を通じて行われるデータの収集法を指す

#### ① **構造化**面接法

質問項目や順序を決め、同様に行う

#### ② **半構造化**面接法（=自由面接法）

質問項目はあるが、ある程度の自由度をもって行う

#### ③ **非構造化**面接法

質問項目などを何も決めずに行う

## 2-2 実施方法

---

### ■ 面接法（インタビュー）

調査者と対象者との対面的な関係において、質問と回答を通じて行われるデータの収集法を指す

#### ④ 個別面接法

1人の対象者に対し、対面的な関係で、データの収集を行う

#### ⑤ 集団面接法

複数の対象者に対し、対面的な関係で、データの収集を行う



## 2-2 実施方法

---

### ■ 観察法

#### ① 統制的観察法

観察状況や調査項目などをあらかじめ設定し、観察する方法を指す。

#### ② 非統制的観察法 (= 単純観察法)

観察にあたって、対象や方法に人工的な操作を加えない観察法を指す

## 2-2 実施方法

---

### ②非統制的観察法(=単純観察法)

- ・**参与**観察法

調査者が対象集団の内部に入り込み、体験したことを記録に残していく方法

- ・**非参与**観察法

調査者が第三者として、対象のあるがままを外部から観察する方法

## 2-3 分析方法

---

### ① ナラティブ分析

対象者の語る自らの経験や人生などについての物語に即して読み解いていく方法である。

- 客観的事実との矛盾は問題にしない
- 語りを忠実に記録する(できるだけ無修正)
- 純粹に物語の構成が分析の対象となる
- 調査者は語りから物語の抽出を要する

## 2-3 分析方法

---

### ②KJ法

文化人類学者の川喜田二郎より創案された発想法。断片的なデータをカードに外在化し、統合して、関連づけていき、創造的な発想を生み出す場合に適した方法。

ラベル化→グループ化→図解化又は叙述化

## 2-3 分析方法

---

### ③ **GTA (Grounded Theory Approach) 法**

社会学者のグレイザーとシュトラウスが提唱した理論構築に重点を置いた方法である。

- 少数のデータでは偏りが大きい
- 多数のデータでは分析の負担が大きい
- 仮説生成などによいとされる

## 2-3 分析方法

---

### ■ドキュメント分析

公的機関の統計や文書、新聞・雑誌などのメディア文書、日記や手記などの個人的記録も分析の対象となる。

### ■会話分析

会話の音声や身振り・表情などの視覚情報を文字に起こして、どのような行為を通して会話を成立させているのかを解明する方法。

## 2-3 分析方法

---

### ■トライアングュレーション

データ、調査者、理論、技法を意図的かつ系統的に組み合わせて行う調査方法である。

### ■アクションリサーチ

ある社会的状態を目標とし、実現の変容を求めて、当事者と共同で調査や実践をすすめるものである。調査方法は、質的方法に限られたものではない。

### 3. 社会調査をめぐる諸問題



## 3-1 調査倫理と個人情報保護

---

### 参考資料

- 社会調査協会の「倫理規定」
- 日本社会福祉士会の「社会福祉士の倫理綱領」

### 出題実績における要点

- 人権の尊重（不利益への配慮、個人情報など）
- 秘密の保護
- 説明責任（目的と提出先）
- 調査研究の促進